

「はたらく NIPPON ! 計画」 A 型フォーラム in 札幌

北海道から A 型事業所の果たす役割について

平成 30 年 8 月 3 日 (土) 10:00~15:00

札幌 ACU-A (アスティー45)

報告書

参加人数 (スタッフ含む) 130 名人以上。

10:00~12:00 3 会場に分かれ分科会

●分科会 1 「多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来」

コーディネータ 法政大学名誉教授 松井亮輔氏

パネリスト NPO 法人札幌チャレンジド理事・事務局長 岡野裕幸氏

一般社団法人 Agricola(アグリコラ) 代表理事水野智大氏

社会福祉法人さっぽろひかり福祉会常務理事小畑有希氏

A 型にとって事業の確立は重要事項です。様々な事例から経営改善のヒントと A 型事業の未来を探ります。

●分科会 2 「A 型における就労支援を考える～中間的就労の試み…などなど」

コーディネータ 株式会社シムス 代表取締役 斎藤規和氏

パネリスト 株式会社シーケンス 代表取締役

就労継続支援 A 型事業所 OneLife 管理者 高山真也氏

株式会社ラダーサポート 就労継続支援 A 型事業所ラダーサポート管理者兼サービス管理責任者 千葉美穂子氏

一般就労が難しい障害者にとって、A 型事業所の存在はなくてはならないものです。一般就労へのステップでありたい。

●分科会 3 「誰もが、当たり前前に働いて生きていける町へ」

コーディネータ NPO 法人 L and P (エルアンドピー)

管理者兼サービス管理責任者 高志博明氏

コーディネータ NPO 法人プロジェクトめむろ副理事長

(エフピコグループ特例子会社エフピコダックス株式

会社 福山選別工場課長 且田久美氏

保険証を持てる A 型事業所の存在は素晴らしいものである。A 型事業所の果たす役割は重要である。

休憩 12:00～13:00

全体ミーティング 13:00～15:00

●分科会からの報告

●全体ディスカッション「A 型事業所の果たす役割」

・事業所によっては、時間にとらわれない働き方を実践している事業所もある。

・経営改善のヒントは、独自性のあるものを作ることが生き延びる。

・5～10年の事業計画を立てて実行することが大切。

・普通の会社との違いは、何かしらの障害がある人と仕事をしている。

・福祉のプロとビジネスのプロの両立が大切である。

・いろいろな経営改善のヒントの本読んで実感がない。

・やる気が大切。

・障害のある人の働ける場がないのはダメである。

●且田さんに意見を求める。

・社会保険証を渡すことが出来る A 型事業所は素晴らしい仕組みだと思う。

・赤 A ネットを作りました。

・今後は手帳を持っている人だけでなくもっと幅を広げ、若い人、高齢者などにも A 型が利用できる仕組みを作る必要があるのでは？

- ・ A だ B だ移行だと言っているが本来このような制度は将来無くす方向に進まなければならない。

大会宣言

就労継続支援 A 型事業所は、通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者につき、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う、雇用契約に基づく事業です。労働法規が適用になるため、原則として最低賃金を保証するしくみであり、労働者としての処遇が求められます。また、同時に福祉事業であるので、福祉サービス利用契約を結びます。

今年 4 月の運営基準改定以降の厳しい状況を踏まえ、北海道から A 型事業所の果たす役割について三つの視点から考えました。

1 点目は、「経営のあり方」について、多様な雇用モデルを元に討議しました。

2 点目は、「中間的就労」の視点から、働きがいのある仕事の提供、働く中で就労支援、中間的就労の取組みについて学びました。

3 点目は、「まちづくり」の視点から、誰もが、当たり前前に働いて生きていけるまちづくりにおける A 型事業所の役割を考えました。

北海道は、人口減少が急速に進んでいます。どの自治体も面積が広く、効率化や収益性の実現が困難な地域性があります。そのような地域性も踏まえて北海道の障がいのある人にとって A 型事業所の必要性は大きく、健全で持続可能な経営が求められます。

私たちは、このフォーラムで論議された様々な本質、学びを生かしていくように、連携して努力していきます。

2018 年 8 月 4 日

就労継続支援 A 型事業所全国協議会（全 A ネット）

「はたらく NIPPON！計画」A 型フォーラム in 札幌

大会実行委員会、参加者一同